

平成 23 年度（前期）海外渡航旅費助成金成果報告書

京都大学大学院 理学研究科
博士課程 3 年 石村大輔

2011 年 8 月 8 日から 12 日まで台湾の台北市において AOGS 8th Annual Meeting 2011 が開催されました。私は平成 23 年度（前期）海外渡航旅費助成を受け、本学会に参加しポスター発表を行いましたのでその報告をさせていただきます。

本学会は地下鉄市政府駅から徒歩 15 分程度の Taipei International Convention Center で行われました。周辺には市政府や貿易センター、また TAIPEI101 という 500m を越えるビルや日本の大手百貨店が立ち並び、台北の行政や商業の中心であることが見て取れました。学会には初日から参加し主に Solid Earth Sciences の各セッションを見て回りました。特に印象に残っているのは Earthquake Geology of East and Southwest Asia のセッションで、スマトラ、台湾、日本などプレート収束帯での地震活動によって引き起こされる諸現象（地殻変動、津波）について研究発表が行われていました。スマトラでサングを用いて過去の地震活動を調べているグループは、多くのデータに基づき断層セグメントや supercycle の地震についての発表を行っていました。いくつかの研究は論文でも見ていましたが、発表を通して聞くことでさらに理解が深まりました。台湾の活断層に関する発表では、私の研究と同様に断層活動により隆起した段丘地形を用いて変形量の見積もりが行われていました。日本国内の隆起速度は大きなもので 1mm/yr のオーダーであるのに対し、台湾のそれは 10mm/yr を越えており、日本とは異なるスケールで変形が進んでいることに驚きました。その他のセッションでは、台湾～フィリピンにかけての複雑なプレート沈み込みの話やインド大陸衝突による東アジアのテクトニクスなどの話を聞くことができ、自分の頭の中で東～東南アジアのテクトニクスを整理することができました。私は 4 日目の午後に段丘地形と地下地質を用いて過去 10 万年間の隆起・沈降量を明らかにした研究発表をポスターで行いました。発表では英語でうまく説明できない部分や積極的に話しかけることができないことがあり、反省すべき点が多い発表となりました。

今回が初めての海外での国際学会ということで色々緊張した部分もありましたが、結果としては多くのアジアの方々と交流することができ、その雰囲気を感じることができました。その一方で、英語についてはさらに努力していかなければならないと強く感じました。最後になりましたが、海外渡航旅費助成により本学会を有意義に過ごすことができ、またこのような機会をいただいたことに深く感謝いたします。